

第2回富士見市生涯学習推進市民懇談会 会議録

日時 令和2年10月12日(月) 13:30~15:30
場所 鶴瀬西交流センター3階多目的ホール
出席者 ○市民懇談会参加者

猪俣	関根	新井	荒井	浅野	瀬戸
○	欠	○	欠	○	○
上川	戸塚	搦木	小栗	渡邊	大下
○	欠	欠	欠	○	○

○事務局

【地域文化振興課】平課長、佐藤、高橋

【生涯学習課】 深迫課長、玉田、石井

○傍聴者

1名

1 開会

2 議事

(1) 次期生涯学習推進基本計画について

生涯学習市民アンケートの結果と第3次富士見市生涯学習推進基本計画骨子案の概要について、事務局より説明。

(2) 質疑

【生涯学習市民アンケートについて】

参加者) アンケートの回答者が60歳以上で50パーセント以上を占めている。計画で指す市民とはどの年齢層をイメージしているのか。特に10代、20代の回答が少ない。意見が反映されていないのではないか。

事務局) ご指摘のとおり回答してくれる年代が限られている。若年層に興味をもってもらうために何ができるか検討が必要だと考えている。

参加者) 40代、50代、60代に偏っているので、20代、30代に向けての支援を。例えば、幼稚園・保育園へ職員が出向いて出前講座などを実施することで保護者の興味を引くことができるのではないか。

参加者) アンケートの方法について確認したい。

事務局) 満18歳以上の市内在住男女1,000名を無作為抽出し、郵送でアンケートを行った。年代の人数に偏りが出ないように抽出を行った。併せて、公共施設にもアンケート用紙を置き、窓口にて回収を行った。有効な回収率を得られたと考えている。

参加者) アンケートは、生涯学習という言葉聞きなれていない世代の回答が少ない。生涯学習をそもそもわかっていない方はアンケートに回答しにくい。例えば、児童館に来ている人は、児童館での活動が生涯学習につながっているとわ

からないと思う。

【生涯学習推進基本計画骨子案について】

参加者) 計画案第1節に3種類の計画名が入っており、どれがどの計画か市民にはわかりづらいためわかるように説明を入れるなどするとよい。また、K P I と K S F についての説明が必要ではないか。

事務局) K P I とは^{キー パフォーマンス インディケーター}Key Performance Indicatorの頭文字で重要業績評価指標のことであり、目標を達成するために重要な指標として位置付けるもの。K S F とは^{キー サクセス ファクター}Key Success Factorの頭文字で重要成功要因、いわゆる活動指標であり、事業の実施回数や参加人数などがこれにあたる。

参加者) 2次計画は具体的すぎて市民にはわかりにくいところがあったが、3次計画はその点を踏まえている。計画年数が5年ということも私は賛同している。評価できる計画にしていると感じる。K P I ・ K S F については本文に入れず、別に記載したほうがいいのではないか。

参加者) 全体のフローチャートを入れるとわかりやすいのでは。K P I ・ K S F は用語解説を入れるか、思い切って使わないというのもいいのではないか。

参加者) 2次計画は数値目標がなかった、3次計画では目標を入れたことが大きな違いだと思う。

参加者) 3点ほど確認したい。1点目は、目標設定が達成できる数値になっているのではないか。基本目標①のK P I、学習活動支援の満足度の目標値50%は、富士見市として本気で取り組む姿勢があるのかわかりづらい。2点目は、「自由な学びにより生きがいができる」という目標が、この3つの基本目標で達成できるものなのか。3点目は、公共施設マネジメントと連動していないのではないか。

事務局) 第6次基本構想案と数値の整合を図っているため、まずここまで達成したいという最低ラインと考えている。公共施設マネジメントも現在作成中のため、この計画に反映することは出来ないが、5年後の見直しの中で改めて検討したい。

参加者) 数値目標が、できない目標では仕方ない。

参加者) 計画案は素晴らしいと思う。作っただけではもったいないので、実行できるように広報紙に載せて周知してほしい。

参加者) 生涯学習がなぜ必要なのか、富士見市の生涯学習をどうしていくのかに触れていくものよい。

事務局) 市の広報紙は、まず行政情報をお知らせすることが基本であるため、計画の全てを掲載することは難しいが、引き続き、わかりやすい情報発信とともに、パブリックコメントなど意見をもらう時には広報紙に掲載していく。

参加者) パブリックコメントではどのくらい意見が出るのか。

事務局) 一概には言えないが、市民生活に密接に関係する分野の計画ではそれなりの

数のコメントをいただいている。

参加者) 若い世代に意見を聞いてみると、新しいアイデアが出るのではないか。

参加者) 若い人が自主的に学ぶためには、どうすれば学べるのか。各ライフステージに応じた生涯学習の向き合い方がわかるとよい。

参加者) 2次計画と3次計画の大きな違いは。

事務局) 生涯学習の考え方の根本的な部分に、大きな変化は現状ではないと考えている。5年間の中で社会情勢や環境の変化に応じて検討していきたい。

参加者) 今後高齢者が増える時代になる。どう情報を伝達していくかはとても重要である。

参加者) 10ページの「自由な学びにより生きがいができる」が3次計画の目指すものだと抽象的でわかりにくい。

参加者) 市民が受け身になっていると感じる。市は機会を提供し、市民が能動的に学べるような文言が入るといいのではないか。

事務局) そのような環境づくりができればよいと考えている。本日の会議では、様々な意見をいただいたが、基本的な方向性は皆様と同じであることが確認できたと考えている。

3 その他

次回会議の予定について連絡。12月開催予定。

4 閉会